

一つ松 幾代か経ぬる  
吹く風の 音の清きは

年深みかも

市原王  
いちはらのおほきみ



Pine tree, you must live for many generations.  
Your branches make noble sound of the wind,  
Maybe it's the result of your deep long life.

松に吹く風の音を「松籟しょうらい」といいます。「籟さい」とは竹で作った笛のことで、松が響かせるその澄んだ音を、笛の音に例えたのでしよう。

また茶道では、釜の湯が沸いた時の音を同じく「松籟」と呼びます。静かな茶室に流れるこの音は松風に似て、私達の心を落ち着かせてくれます。

「松の木よ、君はいつたい何年の時を経ているのだろう。」

吹く風の音が清らかなのは、長い年月を生きているからなのか。」

長い歳月を経た松の大木は、軽やかでいて深みのある音を奏でます。

それは人間も同じで、根を張り、風に耐え、時には折れそうになりながらも幾年月を踏ん張って生きてきた者には、深い思慮と爽やかな達観たつかんが宿ると大きな松の老木が教えてくれているかのようです。

日本では「松竹梅」というように、松は最上級の格とされてきました。

冬でも変わらずに青々としたその姿は、日本だけでなく東アジアや欧州でも不老長寿の象徴として大切にされています。

「まつ」という名前は「待つ」「祀まつる」に重なることから、松をお正月に飾ることは新しい年を迎える、神様に奉たまるという意味も込められています。

もうすぐ年の瀬。門に松を飾ると、改まった気持ちになりますね。

新しい年も松はきつと、私たちに清らかな風を運んでくれることでしょう。

（万葉集 卷六 一〇四二）

花物語

比田井宗玉

